27 職域コホートにおける動脈硬化危険因子の長期追跡研究

研究代表者名：河野宏明[1]
共同研究者名：副島弘文[1]、中山茂樹[2]、木庭郁郎[3]、藤井裕己[4]、丸山征郎[5]、小川久雄[1]
施　設　名：熊本大学大学院循環器病態学[1]、熊本厚生農協診療所[2]、熊本ヘルスケアセンター[3]、
NTT 西日本九州病院[4]、鹿児島大学大学院臨床検査医学[5]

統合研究の 0 次および一次研究に症例登録を行っている。0 次研究には 2465 症例（男性 1726 名、女性 739 名、40～55 歳）の登録を行っている。毎年の発症追跡の結果、29 症例の発症も確認することができた。その結果、虚血性心疾患 10 名（46～55 歳、平均 50.3 歳）、脳血管障害 15 名（41～50 歳、平均 47.8 歳）、大動脈瘤 2 名、悪性腫瘍 2 名の発症を認めた。その他に 1 名の交通事故死があった。動脈硬化に伴う血管障害としては、心疾患よりも脳血管障害の方が多かった。しかも、脳血管障害の方が発症年齢が若い傾向があった。脂質など基礎的な血液データおよび生活習慣と発症との関係について報告する予定である。また、一次研究には、職域コホートとして 4349 症例の登録を行っている。我々は、1142 名の健診受診者（40～55 歳、男性 914 名、平均 50.7 歳、女性 228 名、平均 49.4 歳）に対して 75g 経口ブドウ糖負荷試験（OGTT）を実施した。その結果、男性、女性ともに空腹時血糖値は加齢にしたがい上昇した。しかも、男性の空腹時血糖値は女性よりも、どの年齢においても高値であった。OGTT の結果、1 時間、2 時間値ともに男性の方が高値であった（Fasting 100.1±19.7 vs 92.9±9.6、$p<0.01$、1-hour 170.7±52.1 vs 139.7±11.6、$p<0.01$、2-hour 136.0±50.1 vs 119.8±31.5mg/dl、$p<0.01$）。IGT、DM ともに男性の方が多かった（IGT : 24.1 vs. 16.7、$p<0.01$、DM 10.7 vs 1.4%、$p<0.01$）。血圧、中性脂肪も男性の方が高値であった。（124.0±18.5/76.9±11.6 vs. 114.8±19.4/70.6±12.5mmHg、$p<0.01$、148.1±109.4 vs. 88.2±44.0mg/dl、$p<0.01$）。HDL コレステロールは。男性の方が女性の方よりも低値であった（58.8±16.0 vs. 72.6±17.4mg/dl、$p<0.01$）。中年期の耐糖能障害、脂質代謝、血圧の差が将来の動脈硬化性疾患の発症に関係していると考えられる（Circulation J in press）。今年度は、発症追跡を行うとともに、繰り返しのデータを採取するために食事、運動調査、採血データを収集する予定である。ただ、職域コホートであるため、疾患発症率は低いものになると考えられる。運動習慣や食習慣および既往歴など多面的な面から検討していきたい。